愚の旗

竹内浩三

青空文庫

人は、彼のことを神童とよんだ。
小学校の先生のとけない算術の問題を、一年生の彼が即座にといてのけた。先生は自分が白痴になりたくなかったので、彼を神童と言うことにした。

人は、彼を詩人とよんだ。
彼は、行をかえて文章をかくのを好んだからであった。

人は、彼の画を印象派だと言ってほめそやした。
彼は、モデルなしで、それにデッサンの勉強をなんにもせずに、女の画をかいていたからであった。

彼はある娘を愛した。その娘のためなら、自分はどうなってもいいと考えた。
彼はよほどのひま人であったので、そんなことでもしなければ、日がたたなかった。

ところが、みごとにふられた。彼は、ひどく腹を立てて、こんちくしょうめ、一生うらみつづけてやると考え、その娘を不幸にするためなら自分はどうなってもいいと考えた。

しかしながら、やがて、めんどうくさくなってやめた。

すべてが、めんどうくさくなって、彼はなんにもしなくなった。ニヒリストと言う看板をかかげて、まいにち、ひるねにいそしんだ。

その看板さえあれば、公然とひるねができると考えたからであった。

彼の国が、戦争をはじめたので、彼も兵隊になった。

彼の愛国心は、決して人後におちるものではなかった。

彼は、非愛国者を人一倍にくんだ。

自分が兵隊になってから、なおさらにくんだ。

彼は、実は、国よりも、愛国と言うことばを愛した。

彼は臆病者で、敵がおそろしくてならなかった。はやく敵をなくしたいものと、敵をたおすことにやっきとなり、勲章をもらった。

彼の勲章がうつくしかったので、求婚者がおしよせ、それは門前市をなした。

彼は、そのなかから一番うつくしい女をえらんで結婚した。

私よりもいい人を……と言って、離れていったむかしの女に義理立てをした。

なにをして生きたものか、さっぱりわからなかった。なんにもせずにいると、人から、ふぬけと言われると思って、古本屋をはじめた。

古本屋は、実に閑な商売であった。

その閑をつぶすためには、彼は、哲学の本をまいにち読んだ。

哲学の方が、玉突きより面白いというだけの理由からであった。

子供ができた。

自分の子供は、自分である。自分は哲学を好む、しかるが故に、この子も哲学を好むとシロギスモスをたてた。

しかし、子供は、玉突きを好んだ。

彼は、一切無常のあきらめをもって、また、ひるねにいそしんだ。

一切無常であるが故に、彼は死んだ。

いろはにほへとちりぬるを。

青空文庫情報

底本：「竹内浩三全作品集　日本が見えない　全1巻」藤原書店
2001（平成13）年11月30日初版第1刷発行
2002（平成14）年8月30日初版第5刷発行
入力：坂本真一
校正：雪森
2014年10月13日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

愚の旗

竹内浩三

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/